

(解説)初めてでも簡単！BCP策定シートは、山形県内の中小企業、小規模事業者のBCPの取り組みの第一歩を後押し、分かりやすく簡単にBCPを策定いただく意図で作成しました。

1. 基本方針

大地震発生時には、以下の基本方針に則り対応する。

1	
2	
3	

2. 被害想定

想定地震	想定震度
社会インフラの中断（電力・通信:3日間、交通・その他:2週間）	

※新耐震基準を満たしていない建物の場合は、全壊となる想定も必要です。

5. 対応手順 (対策本部を立ち上げ、以下の手順で対応を実施します。)

直後から可能な限り速やかに

①避難

基準	
避難場所	

②救助・負傷者対応

救助・応急処置 道具の所在	
救急搬送先①	(☎ : )
救急搬送先②	(☎ : )

③安否確認

基準		確認方法①	
対象者	総計 人 ( 年 月現在)	確認方法②	
集計担当者		確認方法③	

※夜間・休日に災害が発生した場合の対応

参集メンバーは自身が安全に移動できることが確認でき次第（火災等が発生していない、夜間でない 等）、定められた場所に参集し、災害対応を行う。

参集メンバー	
参集場所	代替場所:

直後から24時間以内

①状況確認

確認対象	担当者（部門）

②帰宅許可

基準	
対象者	
留意点	

③備蓄品の状況

品名	数量	品名	数量

※飲料水（3L/日・人）と食料は最低3日～7日分を準備します。

③事業継続フェーズ

統括責任者

事業継続担当

<メンバー>

①重要業務の継続

対応戦略		資源の脆弱性 (ボトルネック)	
対応手順			

6. 資金調達

必要な資金	概要	予想資金（3ヵ月）
(A) 経営維持費用	従業員への給与の支払い	万円
	買掛金の支払い	万円
	金融機関からの借入金の返済	万円
	その他	万円
(B) 災害復旧費	被災建物・設備の復旧	万円
	その他	万円

調達可能な資金	概要	予想資金（3ヵ月）
(C) 利用可能な手元資金（現在の現預金）		万円
(D) 回収可能な売掛金		万円
(E)		万円
(F)		万円
必要な資金	(A) + (B)	万円
調達可能な資金	(C) + (D) + (E) (F)	万円

7. 事前準備

(1)大地震発生直後	チェック	できていない場合
		20 年 月末 までに対応する
		20 年 月末 までに対応する
		20 年 月末 までに対応する
		20 年 月末 までに対応する

(2)初動対応フェーズ	チェック	できていない場合
		20 年 月末 までに対応する
		20 年 月末 までに対応する
		20 年 月末 までに対応する
		20 年 月末 までに対応する

(3)事業継続フェーズ	チェック	できていない場合
		20 年 月末 までに対応する
		20 年 月末 までに対応する
		20 年 月末 までに対応する
		20 年 月末 までに対応する



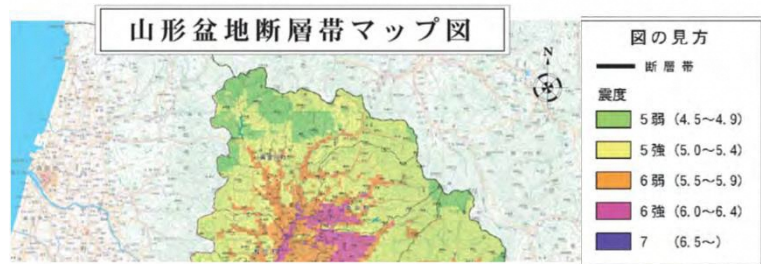
(解説)初めてでも簡単！ B C P 策定シートは、山形県内の中小企業、小規模事業者のBCPの取り組みの第一歩を後押し、分かりやすく簡単にBCPを策定いただく意図で作成しました。

## I. 本社・事業所の被害想定

No	種別	拠点名称	拠点住所	避難場所	地震ハザードマップでの震度(注1)	30年震度6弱以上の揺れに見舞われる確率(注2)
1	本社	〇〇本社	〇〇県〇〇市〇〇1-2-3 〇〇ビル〇階	〇〇小学校	6強	8.5%
2	営業所	〇〇営業所	〇〇県〇〇市〇〇4-5-6 〇〇ビル〇階	〇〇公園	6強	10.2%
3	営業所	〇〇営業所	〇〇県〇〇市〇〇7-8-9 〇〇ビル〇階	〇〇公園	5弱	0.4%
4	営業所	〇〇営業所	〇〇県〇〇市〇〇7-8-9 〇〇ビル〇階	〇〇公園	6強	9.2%
5	営業所	〇〇営業所	〇〇県〇〇市〇〇7-8-9 〇〇ビル〇階	〇〇小学校	5強	5.4%
6	工場	〇〇工場	〇〇県〇〇市〇〇1-2-3 〇〇	〇〇小学校	6強	12.2%
7	工場	〇〇工場	〇〇県〇〇市〇〇1-2-3 〇〇	〇〇小学校	5強	6.5%

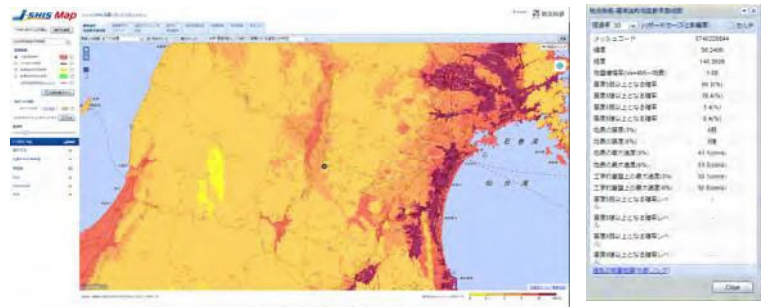
### 注1：地震ハザードマップから最大震度を調査する。

- 山形県内の地震ハザードマップにアクセスする。  
<https://www.pref.yamagata.jp/ou/kendoseibi/180025/taisin/seismicmap.html>
- 山形県内において地震が予測されている「山形盆地断層帯」、「長井盆地西縁断層帯」及び「庄内平野東縁断層帯」の地震ハザードマップを確認し、各拠点の震度を上表に記載する。



### 注2：J-SHIS地震ハザードステーションから拠点が大きな地震動に見舞われる危険度を調査する。

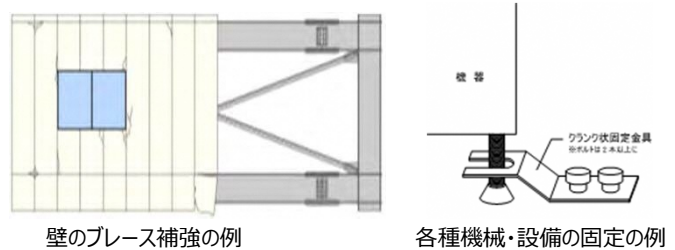
- 防災科研のJ-SHIS地震ハザードステーションにアクセスする。  
<http://www.j-shis.bosai.go.jp/map/>
- マップ上部のタブを「30年震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布図」に変更、ページ左上の検索欄に各拠点の住所を入力し、「場所を検索」を選択する。
- 「検索結果」のウィンドウが表示されるので、拠点の住所をダブルクリック、地図上に表示される青点が拠点場所であることを確認し、青点をダブルクリックする。
- 「拠点情報 確率論的地震動予測地図」のウィンドウが表示されるので、「震度6弱以上となる確率」の数値を上表に記載する。各拠点について②から実施する。



## II. 本社・事業所の耐震補強

### 1. 基本的な耐震対策

- 建屋の堅牢性確保のための対策（耐震診断～耐震対策）  
＊S56年の新耐震基準を満たしていること。そうでない場合は耐震補強工事が必要。
- ガラス飛散防止、オフィス什器備品・P C等転倒防止のための対策
- 各種機械・設備（精密機器、自動倉庫、商品棚等）の固定化などの耐震強化対策



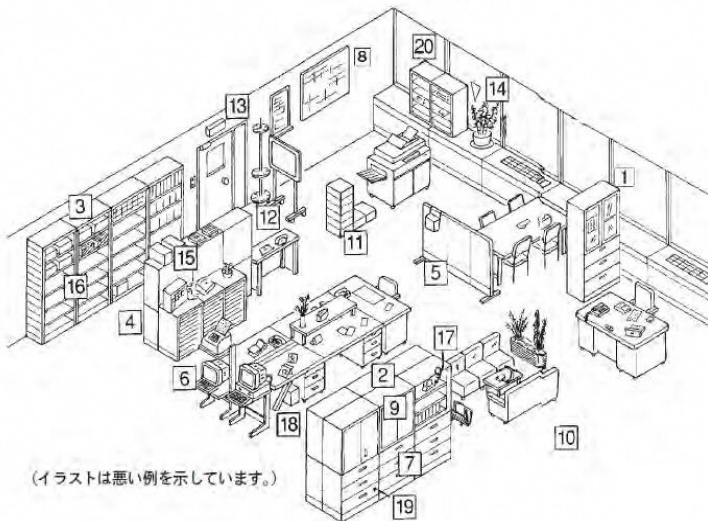
壁のブレース補強の例



各種機械・設備の固定の例

### 2. オフィスでの減災対策例

オフィス内の転倒・落下防止対策チェックリストを活用して確認する。



(イラストは悪い例を示しています。)

出典：家具類の転倒・落下防止対策ハンドブック（東京消防庁）

項目	チェック
1 背の高い家具を単独で置いていない。	
2 安定の悪い家具は、背合わせに連結している。	
3 壁面収納は、壁・床に固定している。	
4 二股重ね家具は、上下連結している。	
5 ローバーテーションは、転倒しにくい「コ」の字型「H型」のレイアウトにしている。	
6 O A 機器は、落下防止対策をしている。	
7 引出し、扉の開き防止対策をしている。	
8 時計、額縁、掲示板等は、落下しないように固定している。	
9 ガラスには、飛散防止フィルムを貼っている。	
10 床につまずきやすい障害物や凸凹はない。	
11 避難路に、物を置いていない。	
12 避難路に、倒れやすいものはない。	
13 避難出口は、見えやすい。	
14 非常用進入口に、障害物はない。	
15 家具類の天板上に、物を置いていない。	
16 収納物がはみ出したり、重心が高くなっていない。	
17 危険な収納物（薬品、可燃物等）がない。	
18 デスクの下に、物を置いていない。	
19 引出し、扉は必ず閉めている。	
20 ガラス窓の前に、倒れやすいものを置いていない。	

## III. 参考資料

- 山形県地域防災計画：山形県の防災に関する総合的な計画。  
<https://www100.pref.yamagata.jp/020072/bosai/kochibou/bousaijouhou/bousaikaigi/bousaikaikaku.html>
- こちら防災やまがた！：山形県の地震や大雨などの災害情報や防災情報が幅広く紹介  
<https://www.pref.yamagata.jp/bosai/>